

13.01.06

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2 0 0 5 年 3 月 3 0 日

出 願 番 号
Application Number:

特 願 2 0 0 5 - 0 9 8 0 6 2

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 5 - 0 9 8 0 6 2

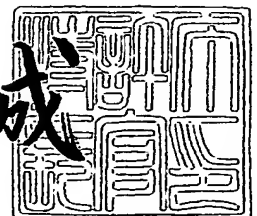
出 願 人
Applicant(s):

株式会社サトー

2 0 0 5 年 1 1 月 1 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中 嶋 誠



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特 2 0 0 5 - 3 0 9 6 3 2 2

【書類名】 特許願
【整理番号】 P05056
【提出日】 平成17年 3月30日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G11C 7/00
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都渋谷区恵比寿4丁目9番10号 株式会社サトー内
 【氏名】 大塚 正則
【特許出願人】
 【識別番号】 000130581
 【氏名又は名称】 株式会社サトー
 【代表者】 大塚 正則
 【電話番号】 048(663)8413
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 065098
 【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

データを記憶する IC チップと当該データを電磁波を用いて非接触で送受信するアンテナとが回路基板上に形成された IC タグと、裏面に粘着剤が塗布され、両端が貼付対象物への貼付部、中央が前記 IC タグを貼り付けて保持する IC タグ保持部およびそれに隣接する印字記録部となった帯状のラベル基材と、前記ラベル基材の各貼付部、IC タグ保持部および印字記録部の境界に形成した折り曲げ部と、前記ラベル基材の裏面に仮着され、粘着剤の塗布面を保護するのと共に、貼付対象物に貼り付けるときに剥離する剥離紙とからなり、貼付対象物に貼付する際には、前記各貼付部をラベル基材の表側に折り返し、IC タグ保持部および印字記録部を向かい合わせに折曲げて貼り合わせ、各貼付部が開いた略 T 字型に形成し、貼付対象物の表面から IC タグ保持部が立ち上がるように貼付することを特徴とする R F I D ラベル。

【請求項 2】

前記折り曲げ部は、ラベル基材に印刷した折り曲げ線、ラベル基材に穿設したミシン目、部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部のいずれか一つまたはこれらの組み合わせからなる、請求項 1 に記載の R F I D ラベル。

【請求項 3】

前記剥離紙には、ラベル基材の少なくとも一つの折り曲げ部に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット（切れ目）を形成した、請求項 1 に記載の R F I D ラベル。

【請求項 4】

データを記憶する IC チップと当該データを電磁波を用いて非接触で送受信するアンテナとが回路基板上に形成された IC タグと、裏面に粘着剤が塗布され、両端が貼付対象物への貼付部、中央が前記 IC タグを貼り付けて保持する IC タグ保持部およびそれに隣接する印字記録部となった帯状のラベル基材と、前記ラベル基材の各貼付部、IC タグ保持部および印字記録部の境界に形成した折り曲げ部と、前記ラベル基材の裏面に仮着され、粘着剤の塗布面を保護するのと共に、貼付対象物に貼り付けるときに剥離する剥離紙とからなる R F I D ラベルを、前記各貼付部をラベル基材の表側に折り返し、IC タグ保持部および印字記録部を向かい合わせに折曲げて貼り合わせ、各貼付部が開いた略 T 字型に形成する工程、および、前記 R F I D ラベルを、貼付対象物の表面から IC タグ保持部が立ち上がるように貼付すること、または、液体の充填されたビンの液面より上の細首部に貼付または巻き付け貼付すること、または、袋状や箱状の容器の縁に各貼付部が跨るように貼付すること、のいずれかである R F I D ラベルの貼付方法。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 R F I D ラベルおよびその貼付方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、データの読み書きに電磁波を利用した R F I D ラベルおよびその貼付方法に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、無線を使って I C チップの読み書きを行う技術である R F I D (Radio Frequency ID) の開発が盛んになされている。

【0003】

図 14 にその動作原理を示す。

【0004】

R F I D 5 は I C チップ 1 とアンテナ 2 が内蔵された薄いフィルム 3 からなる I C タグ 4 (インレットと呼ばれる) を、ラベル (シール) やプラスチックのカード、下げ札に加工し、管理したい物に貼り付けたり、吊り下げて使うようになっている。

I C タグ 4 の主要部をなす I C チップ 1 には、コイル状のアンテナ 2 が繋がっており、このアンテナ 2 に、リーダーライター 6 からの電磁波が当たると電流が生じ、この電流を使って I C チップ 1 を駆動し、リーダーライター 5 から送られてくるデータを受信したり、自らのメモリに格納されている情報を無線で送信する。

【0005】

I C チップ 1 には、メモリが内蔵されており、このメモリには、通常、書き換えできないシステム領域と、書き換え可能なユーザデータ領域がある (書き換え可能な領域を持たないものもある)。

【0006】

システム領域の情報は不変なので、偽造やコピーができず、セキュリティに優れている。 R F I D では、数百キロヘルツの長波や、数十メガヘルツの短波、数百メガヘルツの U H F 波、数ギガヘルツのマイクロ波など、様々な周波数が使われており、国によっても若干違う。周波数によって、交信距離や指向性、通信速度やノイズや電波障害の特性が異なり、利用目的や周囲環境に合わせた選択が必要になる。

【0007】

ところで、周波数によっても異なるが、特に U H F 帯の R F I D では電磁波が金属や水に吸収されてしまうため、リーダーや I C タグの近くに金属や水があると、I C タグの情報を読み書きできなくなることがある。

これを解決するためには、邪魔になる物体を取り除くか、影響を受けない特殊な I C タグや周波数を利用しなければならなかった。

【0008】

たとえば特許文献 1 には、電磁波が人体に吸収されて通信距離が短くならないように、中央部を分厚く形成して I C タグを人体から所定の距離だけ離して保持する R F - I D 用リストバンドが開示されている。

【0009】

しかし、特許文献 1 に記載の R F - I D 用リストバンドは、全体の厚みが不均一で中央が分厚くなっているのでプリンタで印字記録をするには不適當である。

【0010】

また、R F - I D 用リストバンドはそれを装着した者がリーダーライター等にかざして I C タグに読み書きするものであるのに対し、物品等に貼付する R F I D ラベルでは、必ずしも物品をリーダーライター等に近づけることができるとは限らない為、I C タグの取付方法には更なる工夫が必要であった。

【0011】

【特許文献 1】 特開 2003-296675 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0012】**

本発明は上記従来技術の問題に鑑みなされたものであり、本発明は、RFIDラベルが、その貼付対象物である容器等の材質や内容物（金属や水分など）の影響を受けて電磁波が吸収され、通信距離が短くならないように、貼付対象物から所定距離だけ離して取り付けることを目的としている。

【課題を解決するための手段】**【0013】**

上記課題を解決するため、第一の発明であるRFIDラベルが採用する構成の特徴は、データを記憶するICチップと当該データを電磁波を用いて非接触で送受信するアンテナとが回路基板上に形成されたICタグと、裏面に粘着剤が塗布され、両端が貼付対象物への貼付部、中央が前記ICタグを貼り付けて保持するICタグ保持部およびそれに隣接する印字記録部となった帯状のラベル基材と、前記ラベル基材の各貼付部、ICタグ保持部および印字記録部の境界に形成した折り曲げ部と、前記ラベル基材の裏面に仮着され、粘着剤の塗布面を保護するのと共に、貼付対象物に貼り付けるときに剥離する剥離紙とからなり、貼付対象物に貼付する際には、前記各貼付部をラベル基材の表側に折り返し、ICタグ保持部および印字記録部を向かい合わせに折曲げて貼り合わせ、各貼付部が開いた略T字型に形成し、貼付対象物の表面からICタグ保持部が立ち上がるように貼付することにある。

【0014】

ここで、前記折り曲げ部は、ラベル基材に印刷した折り曲げ線、ラベル基材に穿設したミシン目、部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部のいずれか一つまたはこれらの組み合わせから選択するのが好ましい。

【0015】

また、前記剥離紙には、ラベル基材の少なくとも一つの折り曲げ部に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット（切れ目）を形成するのが好ましい。

【0016】

一方、本発明にかかるRFIDラベルの貼付方法の特徴は、データを記憶するICチップと当該データを電磁波を用いて非接触で送受信するアンテナとが回路基板上に形成されたICタグと、裏面に粘着剤が塗布され、両端が貼付対象物への貼付部、中央が前記ICタグを貼り付けて保持するICタグ保持部およびそれに隣接する印字記録部となった帯状のラベル基材と、前記ラベル基材の各貼付部、ICタグ保持部および印字記録部の境界に形成した折り曲げ部と、前記ラベル基材の裏面に仮着され、粘着剤の塗布面を保護するのと共に、貼付対象物に貼り付けるときに剥離する剥離紙とからなるRFIDラベルを、前記各貼付部をラベル基材の表側に折り返し、ICタグ保持部および印字記録部を向かい合わせに折曲げて貼り合わせ、各貼付部が開いた略T字型に形成する工程、および、前記RFIDラベルを、貼付対象物の表面からICタグ保持部が立ち上がるように貼付すること、または、液体の充填されたビンの液面より上の細首部に貼付または巻き付け貼付すること、または、箱状容器の稜線上に各貼付部が跨るように貼付すること、のいずれかであることにある。

【0017】

上記RFIDラベルの構成によれば、ラベル基材のICタグ保持部と印字記録部とが隣接する別部位なので、ICタグの凹凸や厚みに障害されることなく、プリンタにより印字記録を行うことができる。

【0018】

また、貼付対象物の表面からICタグ保持部が立ち上がるように貼付けられるので、貼付対象物の材質や内容物の影響を受けずに、ICタグが確実に電磁波を受信できる。

【0019】

また、前記折り曲げ部を、ラベル基材に穿設したミシン目や部分的にラベル基材の幅を

狭く加工した狭幅部で構成すれば、折り曲げる箇所が解りやすく、ずれることもなく容易にラベル基材を折り曲げて、貼り合わせることができる。

【0020】

一方、前記折り曲げ部を、ラベル基材に印刷した折り曲げ線や部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部で構成すれば、誤ってラベル基材を切り離してしまう危険を回避できる。

【0021】

そして、前記剥離紙に、ラベル基材の少なくとも一つの折り曲げ部に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット（切れ目）を形成すると、剥離紙の折り曲げ易い部位に沿ってラベル基材を曲げることができ、ラベル基材を折り返して貼り合わせる位置を間違える危険を少なくできる。

【0022】

さらに、本発明の貼付方法では、液体の充填されたビンの液面より上の細首部に貼付または巻き付け貼付することにより、他のビンやRFIDラベルの邪魔にならず、良好に電磁波を受信できる。

【0023】

さらに、袋状容器や箱状容器の稜線上に各貼付部が跨るように貼付することでも前記と同様の効果を奏する。

【発明の効果】

【0024】

本発明によれば、ICタグ保持部の凹凸や厚みに障害されることなく、RFIDラベルにプリンタによる印字記録ができる。

【0025】

また、対象物の材質や内容物の影響を受けないで、ICタグが確実に電磁波を受信できる。また、折り曲げ部を、ラベル基材に穿設したミシン目や部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部で構成すれば、折り曲げる箇所が解りやすく、ずれることもなく容易にラベル基材を折り曲げて、貼り合わせることができ、折り曲げ部を、ラベル基材に印刷した折り曲げ線や部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部で構成すれば、誤った位置でラベル基材を切り離してしまう危険を回避できる。

【0026】

そして、剥離紙に、ラベル基材の少なくとも一つの折り曲げ部に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット（切れ目）を形成すると、剥離紙の折り曲げ易い部位に沿ってラベル基材を曲げることができ、ラベル基材を折り返して貼り合わせる位置を間違える危険を少なくでき、同時に、誤ってラベル基材を切り離してしまう危険も回避できる。

【0027】

そして、本発明の貼付方法では、液体の充填されたビンの液面より上の細首部に貼付または巻き付け貼付することにより、他のビンやRFIDラベルの邪魔にならず、良好に電磁波を受信でき、箱状容器の稜線上に各貼付部が跨るように貼付することでも同様の効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0028】

以下、本発明を実施するための最良の形態を、図1ないし図13を用いて説明する。なお、前述した従来技術と同一の構成要素に同一符号を付し、その説明は省略する。

【0029】

図1中、10は実施の形態に係るRFIDラベルの一単位を示し、該RFIDラベル10は紙、プラスチックフィルム、合成紙、不織布などの単一または複合材料からなる帯状のラベル基材11と、該ラベル基材11の裏面に塗布された粘着剤12、前述のICタグ4、表面にシリコンなどの剥離剤がコーティングされた剥離紙19から大略構成されている。

【0030】

前記ラベル基材11は、伸張方向の両端が貼付対象物への貼付部13となり、中央が前記ICタグ4を貼り付けて保持するICタグ保持部14およびそれに隣接する印字記録部15となっている。図示の例ではICタグ4の裏面に更に粘着材12が塗布されているが、このICタグ4の裏面の粘着材12は省略することもできる。

【0031】

前記ラベル基材11の各貼付部13と、ICタグ保持部14および印字記録部15の境界には、ラベル基材11に穿設したミシン目からなる折り曲げ部17、18が設けられている。16は印字記録部15の表面に印字された文字、記号、バーコードなどの印字記録であり、RFIDラベルをプリンタにかけて印字するが、手書きやスタンプによって記録するものであってもよい。また、インキの塗布、転写などによるものでも、自己発色や刻印によるものでもよい。なお、自己発色とする場合は、ラベル基材11に自己発色層などの構造を予め設けておく必要がある。

【0032】

19は、前記ラベル基材11の裏面の粘着材12に仮着され、粘着剤12の塗布面を保護すると共に、貼付対象物に貼り付けるときに剥離する剥離紙であり、該剥離紙19の伸張方向一端には、黒インキにより検出マーク（アイマーク）20が印刷されている。該検出マーク20は、RFIDラベル10をプリンタにて印字する場合にプリンタ側の光学センサにより位置検出するための目印として用いられる。

【0033】

RFIDラベル10は、生産・流通過程からプリンタにセットして印字記録されるまで、図2に示すような連続体のロール物21として取り扱われ、剥離紙19はプリンタ内ではRFIDラベルの搬送担体としても用いられる。該剥離紙19の各検出マーク20の前または後（図示例では後）には、RFIDラベル10を一枚ごとに切り取るための切取線（ミシン目）22が形成されている（なお、図2中のICタグ4はラベル基材に覆われて見えないが、透過図として表示している）。

【0034】

RFIDラベル10は以上の如きもので、次にその使用（貼付）方法について説明する。まず、プリンタなどで印字記録部15に記録（必要に応じICタグ4にもリーダーライターを用いて記録）したRFIDラベル10を切取線22で一単位ごとに切り取り、剥離紙19を取り除く。

【0035】

次いで、前記各貼付部13を折り曲げ部17でラベル基材11の表側に折り返し、ICタグ保持部14および印字記録部15を折り曲げ部18で折曲げて向かい合わせに貼り合わせ、図3、図4に示すような各貼付部13が開いた略T字型に形成し、貼付対象物（血液バッグ23…後述）の表面からICタグ保持部14が立ち上がるように貼付するものである。

【0036】

実施の形態における貼付対象物としての血液バッグ23は、中身が多量の水分を含む血液であるため、単にRFIDラベル10を平面的に貼り付けるだけでは、血液バッグ23に電磁波が吸収されてしまい、ICタグ4とリーダーライターとの通信ができない。また、血液バッグ23が変形し易い袋状であることから、RFIDラベル10を平面的に貼付しただけでは、ICタグ4のアンテナ1等が断線し易いという欠点もある。一方、血液は採取日時や提供者の氏名、血液型、健康状態や病歴などの採取時に決まる情報の他に、保管履歴などの追加情報も必要なため、記録の追加や変更ができない通常のバーコードラベルでは管理がしにくいという問題があった。

【0037】

然るに、本実施の形態によれば、RFIDラベル10のICタグ保持部14と印字記録部15とがラベル基材11の隣接する別部位に設けられているので、ICタグ4の凹凸や厚みに障害されることなく、プリンタによりバーコード16等の印字記録を行うことができる。また、貼付対象物である血液バッグ23の表面からICタグ保持部14が立ち上

がるように貼付けられるので、血液バッグ23の材質や内容物の影響を受けないで、ICタグ4が確実に電磁波を受信でき、血液バッグ23に追加情報や変更情報を追記し得るようになる。

【0038】

また、ラベル基材11の折り曲げ部17, 18を、ラベル基材11に穿設したミシン目で構成したから、ラベル基材11を折り曲げる箇所が解りやすく、貼り合わせる際にずれることもなく貼り合わせることができる。

【0039】

そして、血液バッグ23が変形し易いにも関わらず、RFID保持部14はラベル基材11を二重に重ね貼り合わせて補強されているため、ICタグ4のアンテナ2等が断線し難いという長所も具有する。

【0040】

さらに、RFIDラベル10のバーコード16をタッチスキャナやペンスキャナで読み取る場合には、図5の如くRFIDラベル10を寝かせるように、折り曲げ部17で折り曲げることも可能である。

【0041】

次に、他の貼付方法について図6ないし図9を用いて説明する。

図6は血液バッグ23の縁に、RFIDラベル10の2つに開いた貼付部13を跨らせるように貼り付けた状態を示す図、図7は図6中の矢示VII-VII方向断面図である。本実施の形態によっても前述したのと同様の作用効果を奏するものの、特に本形態によると、血液バッグ23を吊したり積み重ねた場合でも、各RFIDラベル10を血液バッグの間から外部に飛び出させることができる。この場合、血液バッグ23の縁に沿って少しずつずらして貼り付けると、RFIDラベル10、血液バッグ23共に省スペースな収納ができる上に、確実に各RFIDラベル10のICタグ4と通信できる。

【0042】

図8は更に他の実施の形態を示し、液体の充填されたビン24の液面25より上の細首部26にRFIDラベル10の貼付部13を貼付または巻き付け貼付することを特徴とする。ビン24はガラスビンでも陶器・磁器、金属やペットボトルなどでもよい。また、液体は試料や試薬などでもよいし、調味料や酒などでもよい。以上の形態とすることで、RFIDラベル10がビン24の収納を邪魔することなく、液体に電磁波が吸収されることもない。また、ビンのキャップ（蓋や栓）27が金属などであってもRFIDラベル10はこれと離れて設置されるので、確実にICタグ4に読込／書き込みができる。

【0043】

図9は更に他の実施の形態を示し、金属製の缶や水分を多量に含んだ物体（例えば粘土や肉、ゲルなど）を収納した箱状の容器28に対し、その縁の一辺から立ち上がるように、貼付部13を跨らせて貼り付けた状態を示す。
以上の構成によっても、前述の形態とほぼ同様の作用効果が得られる。

【0044】

次に、図10ないし図13はRFIDラベルの折り曲げ部形状についての他の実施形態である。いずれもRFIDラベルが複数接続するものであるが、2単位のみを図示する。以下の説明においては、各図の（A）が正面図、（B）が各正面図（A）中の矢示B-B方向の断面図である。

【0045】

図10はRFIDラベル10の折り曲げ部17, 18をミシン目で形成し、各RFIDラベル10同士の境界を剥離紙19についてはミシン目による切取線またはスリット22とし、このときラベル基材11同士の境界はスリットまたはミシン目による切取線とする場合、あるいは剥離紙19およびラベル基材11のいずれもミシン目による切取線とした例を示している。即ち、各RFIDラベル10同士の境界は、剥離紙19同士かラベル基材11同士の両方またはいずれかがミシン目で繋がっている。そして、この切取線22には切り取りの為の「はさみ」の目印29が印刷されている。

【0046】

図11はRFIDラベル10のラベル基材11の折り曲げ部17, 18については図10と同様であるが、剥離紙19の、前記折り曲げ部17（または18）の位置に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット30を形成した例である。この場合、各RFIDラベル10単位に切断した後、ラベル基材11を折り曲げ部17（18）で折り曲げる際に剥離紙19を仮着させたまま行うことが容易となるので、貼付作業時の取り扱いの利便性が格段に向上する。

【0047】

図12はRFIDラベル10のラベル基材11の折り曲げ部31, 32をミシン目ではなく、部分的にラベル基材11の幅を狭く加工した狭幅部で構成したことを特徴とする他の実施形態であり、図13は図12と同様の加工をしたラベル基材11に対して、剥離紙19の、前記折り曲げ部31（または32）の位置に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット34を形成した例である。

【0048】

以上の各例で示したように、折り曲げ部をラベル基材11に穿設したミシン目や部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部で構成すれば、折り曲げる箇所が解りやすく、ずれることもなく容易にラベル基材11を折り曲げて、貼り合わせることができる。

【0049】

また、前記折り曲げ部を、ラベル基材に印刷した折り曲げ線や部分的にラベル基材の幅を狭く加工した狭幅部で構成すれば、誤ってラベル基材を切り離してしまう危険を回避できる。

【0050】

さらに、剥離紙19に、ラベル基材11の少なくとも一つの折り曲げ部に一致させてまたは近傍にミシン目またはスリット（切れ目）を形成すると、剥離紙の折り曲げ易い部位に沿ってラベル基材を曲げることができ、ラベル基材を折り返して貼り合わせる位置を間違える危険を少なくできるのと同時に、誤ってラベル基材を切り離してしまう危険も回避できる。また、ラベル基材11同士の切り離しや貼り合わせの際に裏面にスリットで分離された剥離紙片が仮着されていると作業の利便性が格段に向上するという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【0051】

【図1】本発明の実施の形態に係るRFIDラベルの一単位を示す（A）平面図、（B）（A）中の矢示B-B方向断面図、（C）ラベル基材およびICタグの裏面図、である。

【図2】図1のRFIDラベルを集合体（ロール物）とした状態を示す一部透過の外観斜視図である。

【図3】図1のRFIDの貼付方法を示す一部透過の外観斜視図である。

【図4】図3中の矢示iv-iv方向の断面図である。

【図5】図3中のRFIDラベルを寝かすように曲げた状態を示す説明図である。

【図6】図1のRFIDラベルの他の貼付方法を示す説明図である。

【図7】図6中の矢示vii-vii方向断面図である。

【図8】液体入りのピンを貼付対象物とした場合のRFIDラベルの貼付方法の説明図である。

【図9】箱状容器を貼付対象物とした場合のRFIDラベルの貼付方法の説明図である。

【図10】折り曲げ部の変形例を示す図1（A）、（B）と同様のRFIDラベルの説明図である。

【図11】折り曲げ部の変形例を示す図1（A）、（B）と同様のRFIDラベルの説明図である。

【図12】折り曲げ部の変形例を示す図1（A）、（B）と同様のRFIDラベルの説明図である。

【図 13】折り曲げ部の変形例を示す図 1 (A)、(B) と同様の R F I D ラベルの説明図である。

【図 14】R F I D の原理を説明するための説明図である。

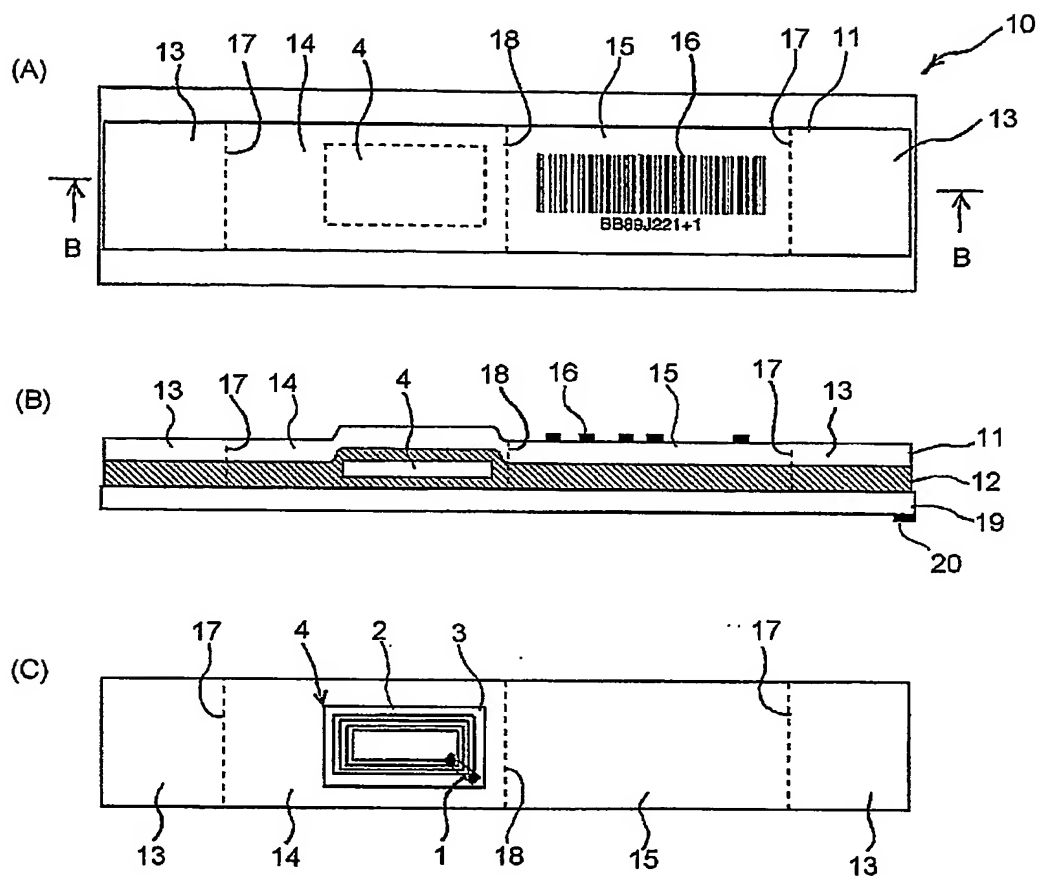
【符号の説明】

【0052】

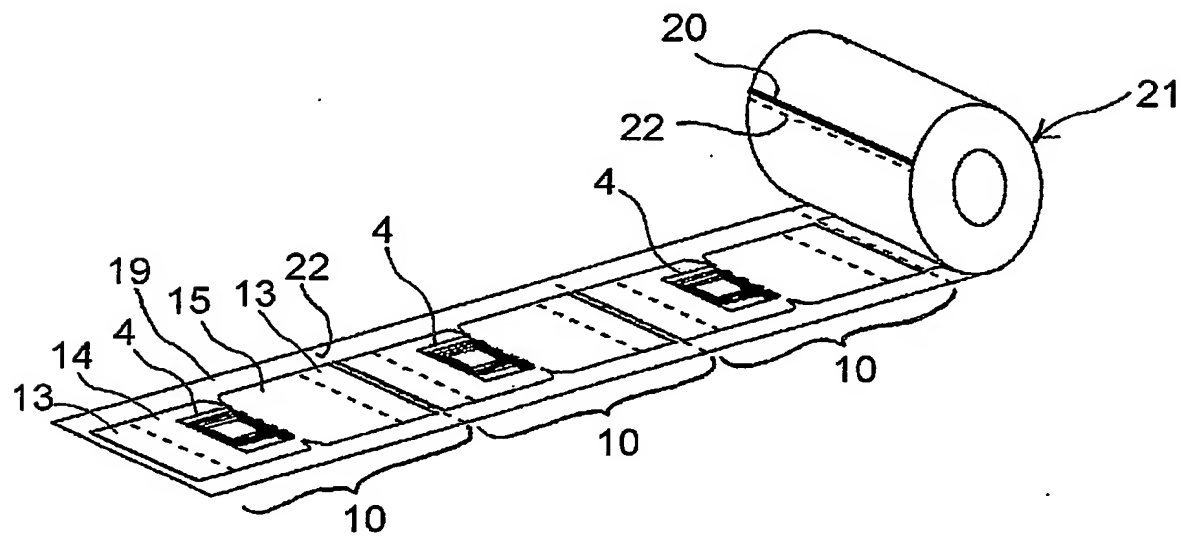
1…ICチップ、2…アンテナ、4…ICタグ、10…R F I D ラベル、11…ラベル基材、12…粘着剤、13…貼付部、14…R F I D 保持部、15…印字記録部、16…バーコード、17, 18, 31, 32…折り曲げ部、19…剥離紙、20…検出マーク、22…切取線、23…血液バッグ、24…ピン、28…箱状容器、30…ミシン目（またはスリット）、31, 32…狭幅部

【書類名】 図面

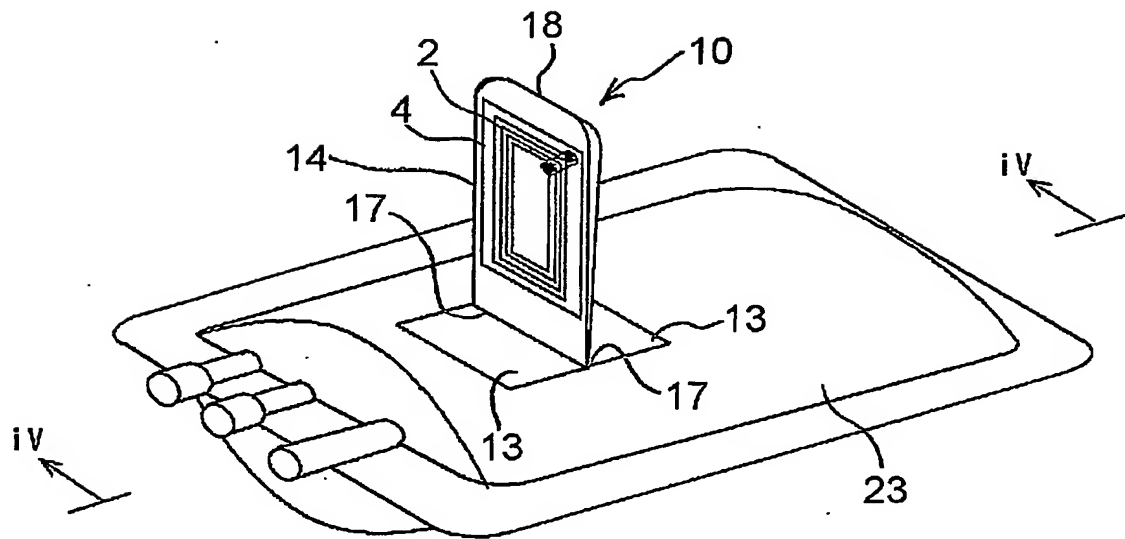
【図 1】



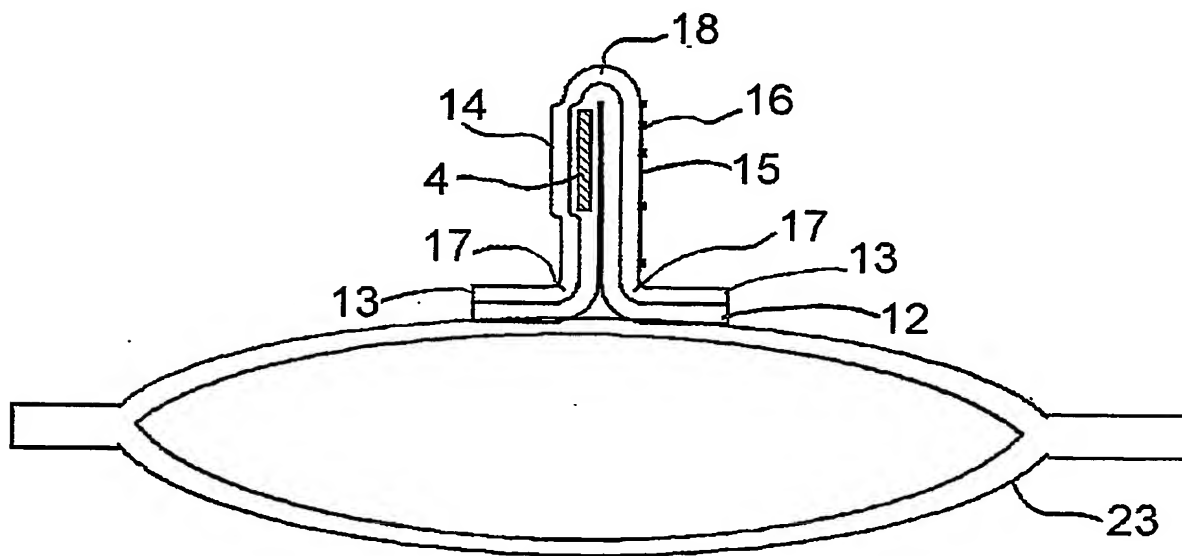
【図 2】



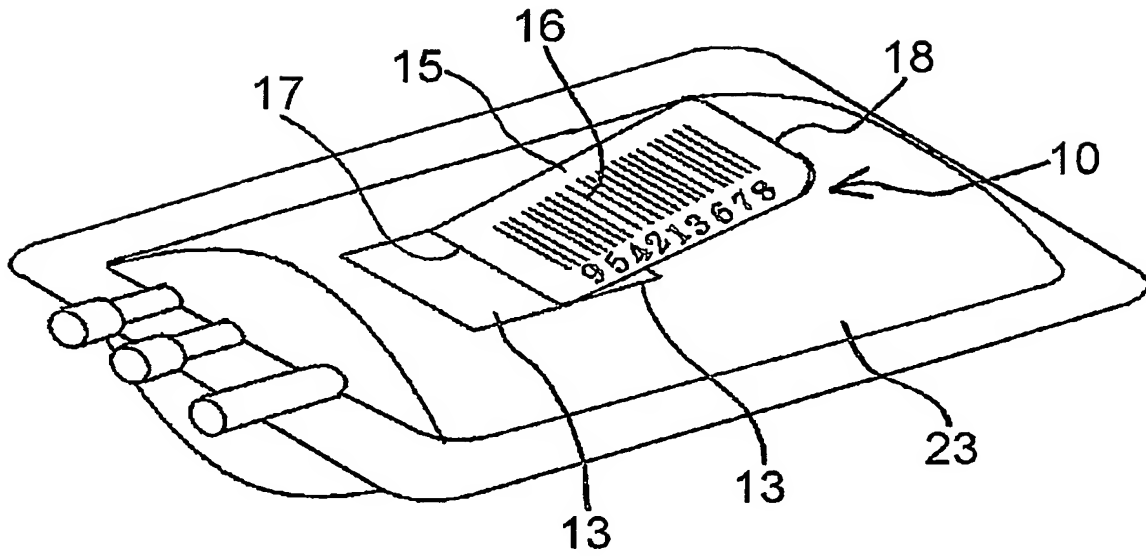
【図3】



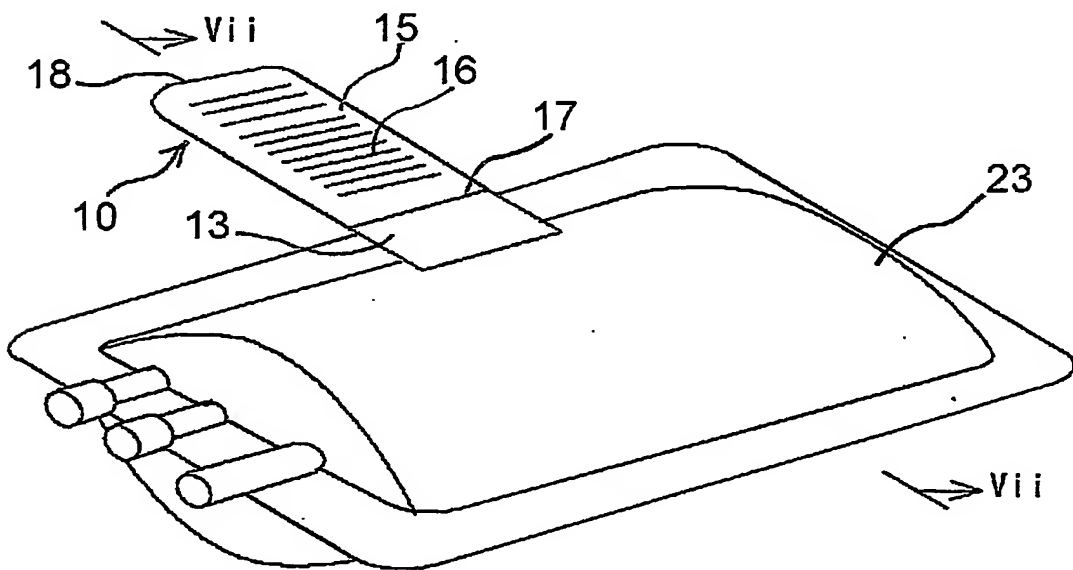
【図4】



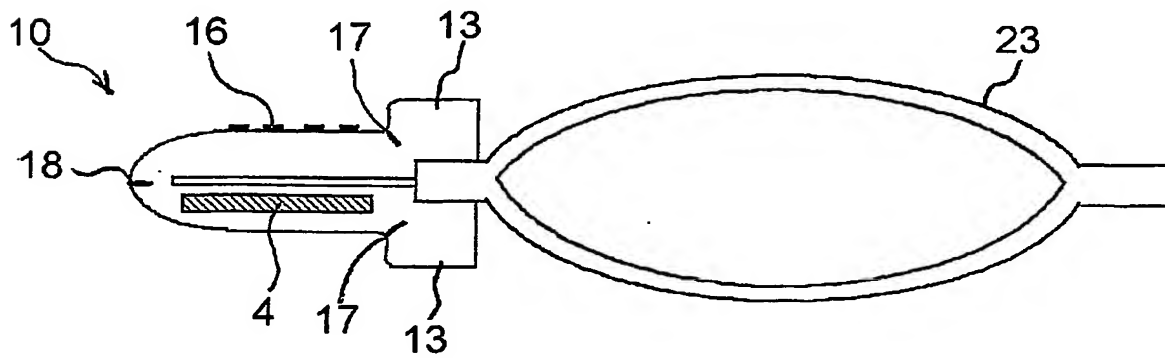
【図 5】



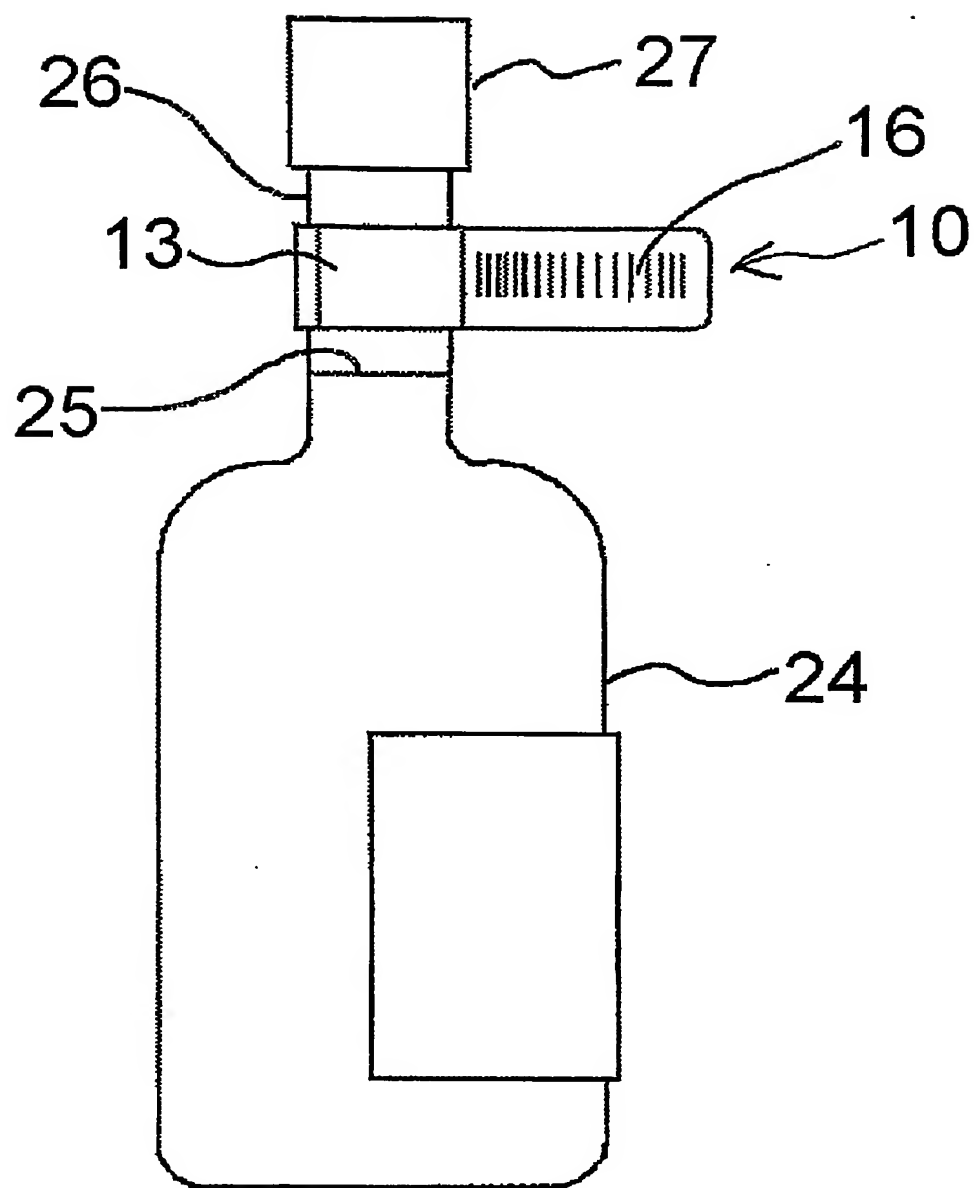
【図 6】



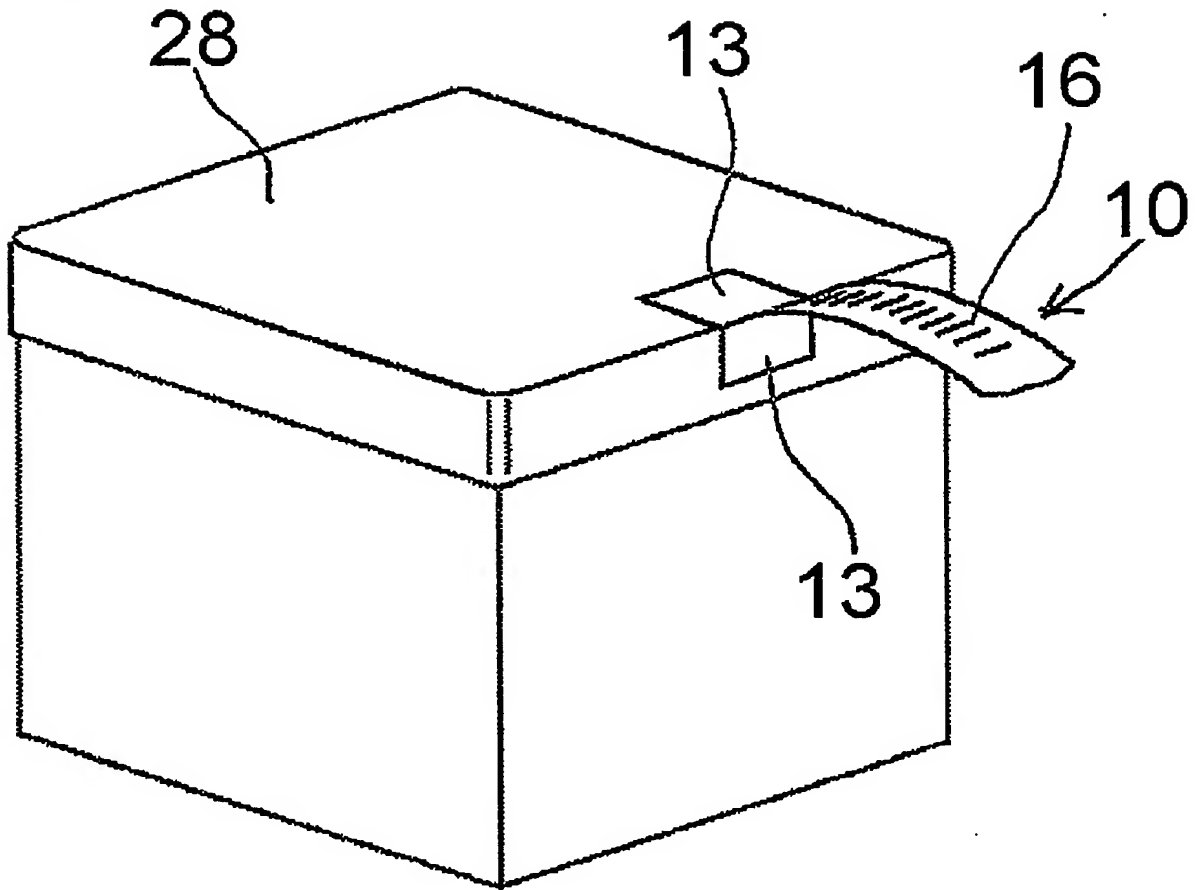
【図 7】



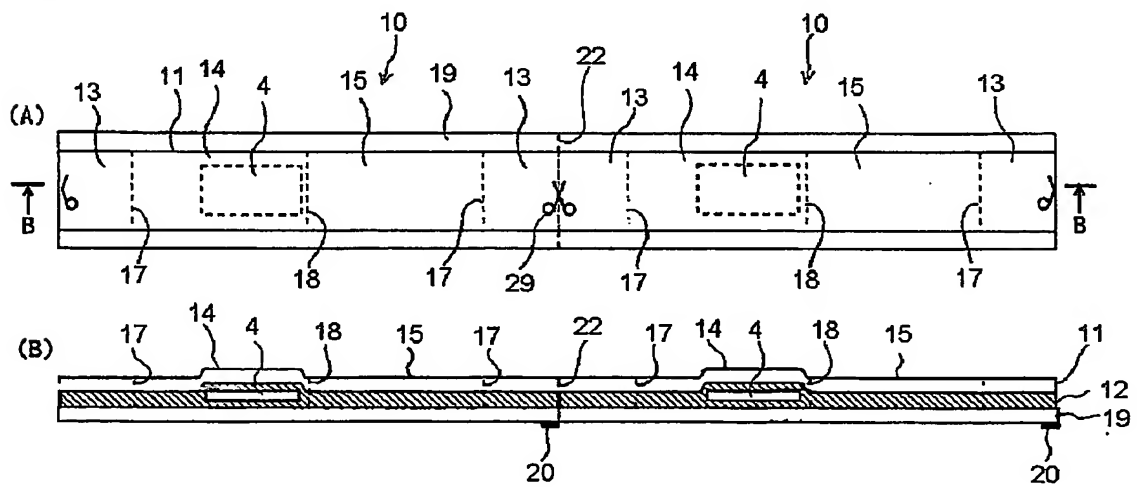
【図 8】



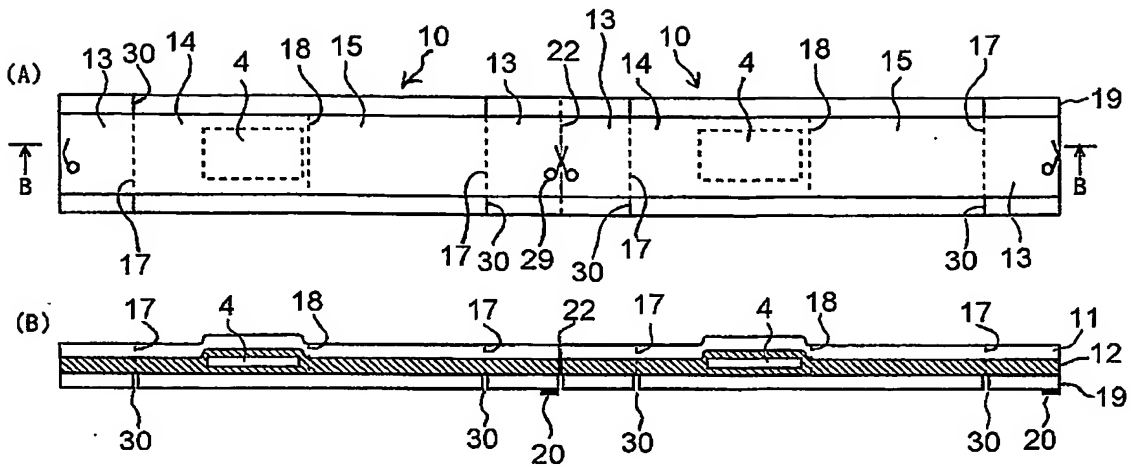
【図 9】



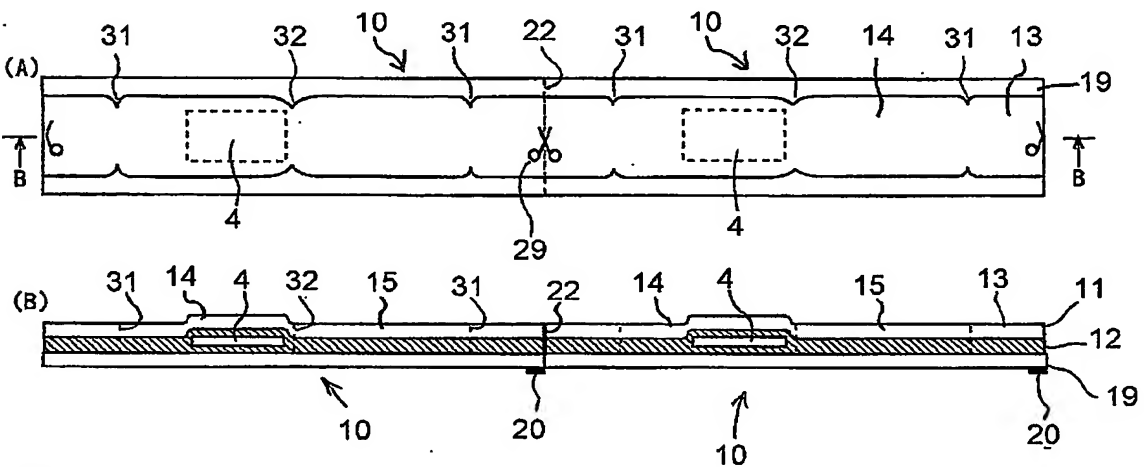
【図 10】



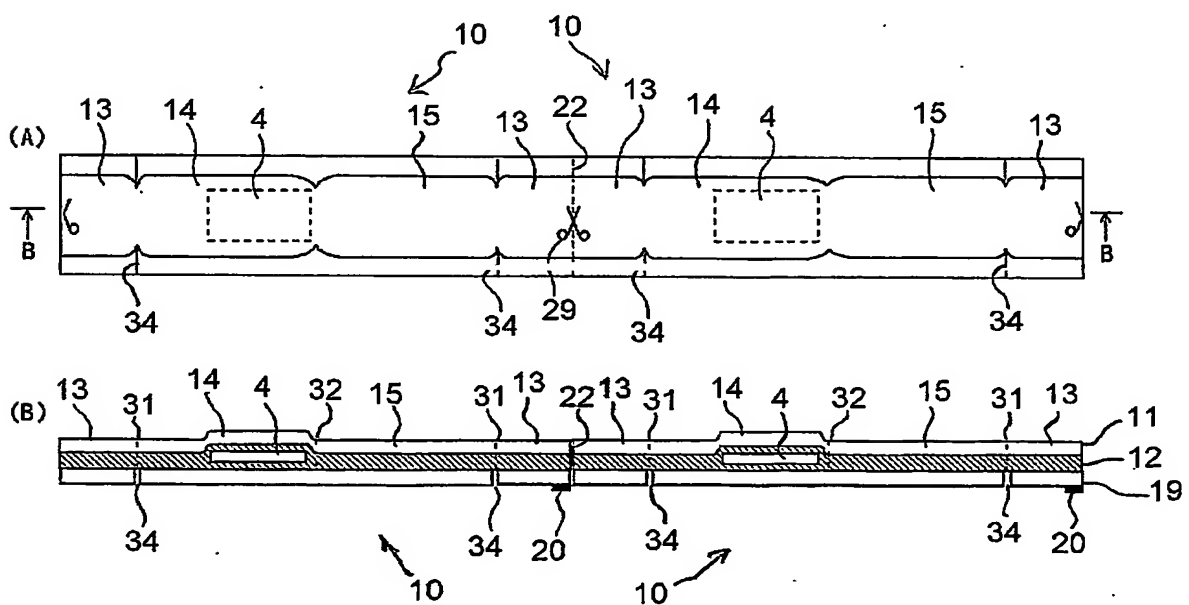
【図 1 1】



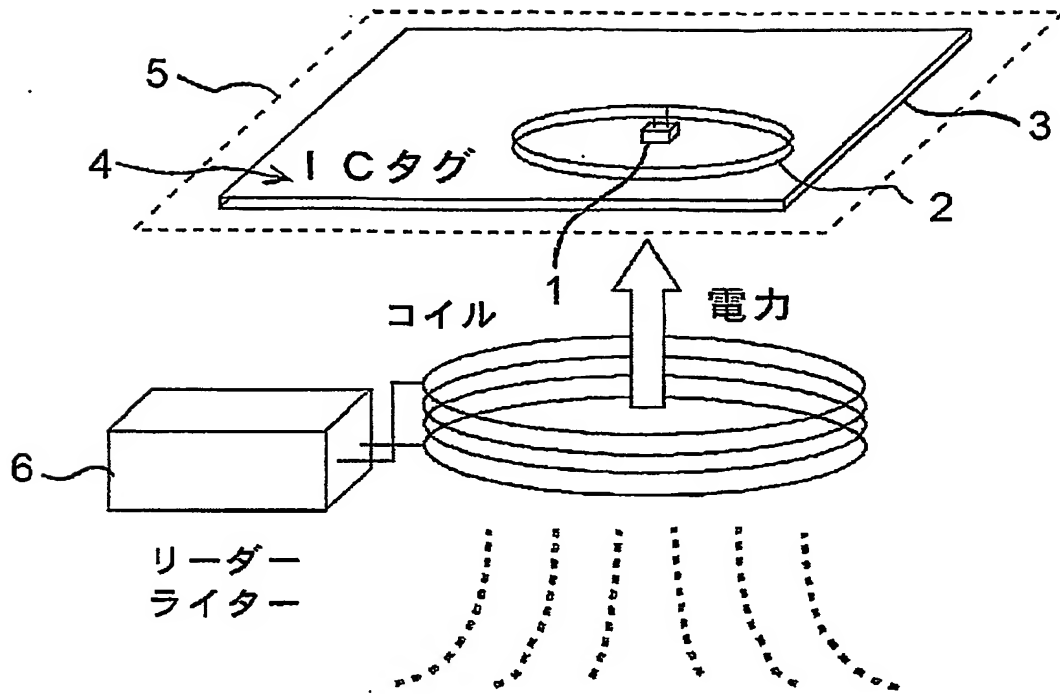
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 R F I D ラベルが、貼付対象物の材質や内容物の影響を受けて電磁波が吸収され、通信距離が短くならないように、貼付対象物から所定距離だけ離して取り付けられる R F I D ラベルの形状および貼付方法の提供。

【解決手段】 血液バッグ 2 3 に貼り付けるときに、貼付部 1 3 を折り返し、I C タグ 4 保持部 1 4 および印字記録部を向かい合わせに折曲げて貼り合わせ、各貼付部 1 3 が開いた略 T 字型に形成し、血液バッグ 2 3 の表面から I C タグ保持部 1 4 が立ち上がるように貼付する。

【選択図】 図 3

特願 2 0 0 5 - 0 9 8 0 6 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 3 0 5 8 1]

1. 変更年月日

2 0 0 3 年 4 月 4 日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都渋谷区恵比寿4丁目9番10号

氏 名

株式会社サトー

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/EP2005/010497

International filing date: 28 September 2005 (28.09.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2005-098062
Filing date: 30 March 2005 (30.03.2005)

Date of receipt at the International Bureau: 01 February 2006 (01.02.2006)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☒ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.